

【分野】 医学・薬学

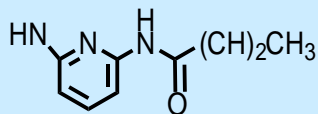
【キーワード】 抗ウイルス薬、糖鎖、認識

## 【研究シーズの概要】

抗ウイルス薬の開発を目指し、糖鎖と親和性を有する新規化合物の分子設計や標的化合物の探索研究を展開している。

一群の2, 6-ジアミノピリジン関連化合物やトリアリールメタン骨格を有する化合物を合成し、抗ウイルス活性評価を検討した。

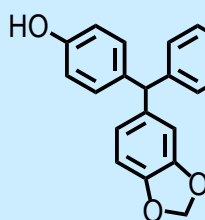
合成した化合物の多くに高い抗ヘルペスウイルス (HSV-1) 活性を見出した。



**DAP1**

EC<sub>50</sub> (μM) 52.5

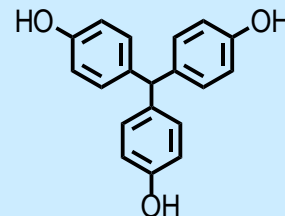
IC<sub>50</sub> (μM) 171.6



**TAM1**

2.1

79.3



**TAM2**

6.6

37.0

抗ウイルス活性を表すEC<sub>50</sub>は、小さな値ほど活性が強い。細胞毒性の指標であるIC<sub>50</sub>は、大きな値ほど毒性が低い。

## 【特徴、効果、独創的な点】

- 抗ウイルス活性を示した化合物類は新しいタイプの構造をもつ。
- 糖との親和性が分子モデルから予測される。
- ウイルスのエンベロープに着目し、糖鎖親和性と抗ウイルス活性との関係性について検討した研究はまだ行われていない。

## 【利用、用途】

- ウイルスのエンベロープに作用し、ウイルスの侵入や増殖を阻止する新しいタイプの抗ウイルス薬の開発
- 変異型および耐性ウイルスに有効な抗ウイルス薬の開発
- ウイルスの侵入や増殖のメカニズムの解明

## 【知的財産等情報】

*Chem. Pharm. Bull.*, 56 (7), 1052-1058 (2008).